

OPDES オビディエンス ステップクラス規定書



2009年	2月	1日	改正作成
2017年	7月	5日	一部改正
2019年	6月	1日	改正
2022年	1月	1日	改正

《全般規定》

- ハンドラーはスポーツマンシップに則り、また愛犬家としてのルールを守って競技に参加して下さい。
- 犬に装着する用具は一つだけとし、スパイクカラー・ヘッドカラーなどの使用は禁止します。チェーンカラーを装着している場合、引き締めの状態での使用は禁止となります。
- リンクでの事前練習は出来ません。
- 競技リンク内では、犬をハンドラーの横に付けて移動してください。
- 『犬を横に付けて歩く』の課目では、犬が人の左側という一般的なポジション以外に、右側のポジションについても認めます。速歩と緩歩以外はすべて常歩(一般的な歩行速度)です。
- 基本姿勢とは、ハンドラーが気をつけの姿勢を取り、犬がその横にハンドラーと平行に座った状態を指します。
- 犬に対する指示は少ない方が理想的ですが、特に回数の制限はありません。また、犬の名前を呼んでもかまいません。
- ハンドシグナルや、犬を触っての誘導、リードを使った誘導は少ない方が望ましいです。
- 審査は、課目毎に犬の作業内容に見合った点数が与えられます。
- ハンドラーが希望すれば、審査員はハンドラーに次の課目を教えることができます。
- 出場者が審査簿の閲覧を希望した場合、審査員はそれを拒むことはできません。
ただし審査内容に意義を申し立てる事はできません。
- 審査終了後、審査員が全体的な作業の講評を行います。
- 明記されていない事は、審査員の判断とします。

《競技失格》

- 競技中いかなる場面(入退場や申告も含む)でも、ハンドラーのスポーツマンシップに欠ける態度、コントロール不能犬、あるいは審査員が犬の行動に重大な欠点を認めた場合、競技は中止され失格となります。
- 犬がハンドラーのもとを離れ、呼び戻しでハンドラーのもとに戻ってこないような場合も競技は中止され、失格となります。
- 手ぶくろは、防寒目的での着用のみ認めます。
*全競技(SP1～SP3)において、犬が審査員に飛びつくなどの行動を取った場合、失格になる場合があります。失格の場合、得点は一切与えられません。

《表彰・その他》

- 同点は同順位とします。
※規定されていない事項についても競技会の現場等で、より変更が望ましいと考えられる事項があった場合は、審査員の判断で決定します。

《各課目の中止》

- 課目の課題を実行することにあまりにも時間がかかってしまった場合、その課目は中止となる場合があります。

SP1(ステップ1)

○リードを付けたまま作業出来ます。

○犬のおもちゃやおやつを入れるためのポーチ類を装着してもかまいません。(中に入れたおやつなどがこぼれないように注意して下さい。)

○ご褒美を見せながら歩く事が出来ます。ご褒美は、指定されたエリア内で与えることが出来ます。(指定されたエリア以外では与えることが出来ません。また、落とさない様に注意して下さい。)

1. 申告

犬を横に付け、リンクに入場します。

基本姿勢を取り、ハンドラー名と犬名を申告したのち、審査員と握手します。

審査員がハンドラーと犬の周りを1周します。その後、審査員の合図によりスタート地点に移動します。

2. 犬を横に付けて歩く

スタート位置につき、基本姿勢を取ります。審査員の合図により、犬を横に付けて[座れ]エリアまで歩きます。

3. 座れ

[座れ]エリアで、速やかに座らせます。ご褒美を見せて座らせても構いません。

審査員が合図をしたら、ご褒美をあげる事が出来ます。

4. 犬を横に付けて歩く

[座れ]エリアで基本姿勢を取ります。審査員の合図により、犬を横に付けて[伏せ]エリアまで歩きます。

5. 伏せ

[伏せ]エリアで、速やかに伏せさせます。ご褒美を見せて伏せさせても構いません。

審査員が合図をしたら、ご褒美をあげる事が出来ます。

6. 犬を横に付けて歩く

[伏せ]エリアで基本姿勢を取ります。

審査員の合図により、犬を横に付けてコーンを左にターンし、[速歩]エリアまで歩きます。

7. 速歩

[速歩]エリアに入ったら、止まることなく常歩の2~3倍ぐらいのスピードで、[緩歩]エリアまで走ります。

8. 緩歩

[緩歩]エリアに入ったら、止まることなく常歩の半分ぐらいのスピードで、[スラローム]エリアまで歩きます。

9. スラローム

[スラローム]エリアに入ったら常歩に戻り、コーンをスラローム歩行で通過します。

進み方は、1つ目のコーンの右側を通り、次に2つ目のコーンの左側、そして3つ目のコーンの右側、4つ目のコーンの左側を通ります。

10. 4つのコーン

[スラローム]エリアを抜けた後、右折をして[4つのコーン]エリアへ向かいます。

[4つのコーン]エリアの中で、基本姿勢を取ります。

審査員が合図をしたら、ご褒美をあげる事が出来ます。

11. 待て

[呼び込み]エリアへ移動し、基本姿勢を取ります。

[呼び込み]エリアにはロングリードが用意してありますので、それに付け替えます。(リードの付け替えは義務ではありませんので、それまでのリードのままでもかまいません。)

ロングリードに付け替えた後、[座れ]もしくは[伏せ]の姿勢をとらせて離れます。このとき、犬に声をかけたり、対面しながら離れても構いません。

離れる距離は、およそ5メートルです。

12. 呼び込み

対面し、審査員が合図をしてから、犬を手元に呼んで下さい。このとき、リードは手に持たず、置いたままにしておきます。

ご褒美を見せて呼んでもかまいません。

来た犬は、ハンドラーのそばに座させます。座る位置は指定されていません。

ハンドラーに飛びついたり通り過ぎたりせず、すぐそばにスムーズに座ることが出来れば理想的です。

ご褒美を見せて座らせてもかまいません。

審査員が合図を出したら、ご褒美をあげる事が出来ます。

SP2(ステップ 2)

- リードを付けたまま作業出来ます。
- ポーチ類の装着は認められません。
- ご褒美を持つての作業は認められません。ポケットなどに入れておくことも出来ません。

1. 申告

犬を横に付け、リンクに入場します。

基本姿勢を取り、ハンドラー名と犬名を申告したのち、審査員と握手します。

審査員がハンドラーと犬の周りを1周します。その後、審査員の合図により、犬を横に付けて審査員の周りを犬が外側になるように1周し、止まることなくスタート地点に移動します。

2. 犬を横に付けて歩く

スタート位置につき、基本姿勢を取ります。

審査員の合図により、犬を横に付けて[座れ]エリアまで歩きます。

3. 座れ

[座れ]エリアで、速やかに座させます。

審査員が合図をしたら、褒めることが出来ます。

4. 犬を横に付けて歩く

[座れ]エリアで基本姿勢を取ります。

審査員の合図により、犬を横に付けて[伏せ]エリアまで歩きます。

5. 伏せ

[伏せ]エリアで、速やかに伏せさせます。

審査員が合図をしたら、褒めることが出来ます。

6. 犬を横に付けて歩く

[伏せ]エリアで基本姿勢を取ります。

審査員の合図により、犬を横に付けてコーンを左にターンし、[速歩]エリアまで歩きます。

7. 速歩

[速歩]エリアに入ったら、止まることなく常歩の2~3倍ぐらいのスピードで、[緩歩]エリアまで走ります。

8. 緩歩

[緩歩]エリアに入ったら、止まることなく常歩の半分ぐらいのスピードで、[スラローム]エリアまで歩きます。

9. スラローム

[スラローム]エリアに入ったら常歩に戻り、コーンをスラローム歩行で通過します。

進み方は、1 つ目のコーンの右側を通り、次に2 つ目のコーンの左側、そして3 つ目のコーンの右側、4 つ目のコーンの左側を通ります。

[スラローム]エリアを抜けた後、右折をして[4 つのコーン]エリアへ向かいます。

10. 4 つのコーン

ほぼ正方形に置かれたコーンを、8 の字を描くようにコーンのひとつを右回り、別のコーンを左回りに歩き、4 つのコーンの中心で基本姿勢を取ります。

審査員が合図をしたら、褒めることができます。

11. 待て

[呼び込み]エリアへ移動し、基本姿勢を取ります。

[呼び込み]エリアにはロングリードが用意してありますので、それに付け替えます。(リードの付け替えは義務ではありませんので、それまでのリードのままでもかまいません。)

ロングリードに付け替えた後、[座れ]もしくは[伏せ]の姿勢をとらせて離れます。このとき、犬に声をかけたり、対面しながら離れても構いません。

離れる距離は、およそ 10 メートルです。

12. 呼び込み

対面し、審査員が合図をしてから、犬を手元に呼んで下さい。このとき、リードは手に持たず、置いたままにしておきます。

来た犬は、ハンドラーの前に向かい合った状態で座らせるか、ハンドラーの横に並んだ状態で座らせます。(前面停座、或いは脚側停座。)

ハンドラーに飛びついたり通り過ぎたりせず、すぐそばにスムーズに座ることが出来れば理想的です。

審査員が合図をしたら、褒めることができます。

SP3(ステップ3)

- リードを付けたまま作業出来ます。
- ポーチ類の装着は認められません。
- ご褒美を持つての作業は認められません。ポケットなどに入れておくことも出来ません。
- [4つのコーン]の課目は、対角線上のふたつのコーンが群集(人)になります。

1. 申告・休止

犬を横に付け、リンクに入場します。

基本姿勢を取り、ハンドラー名と犬名を申告したのち、審査員と握手します。

審査員がハンドラーと犬の周りを1周します。

次に、審査員の合図により、犬を指定の場所に係留し、[座れ]または[伏せ]の姿勢をとらせてから、審査員と共に約6m離れます。

審査員の合図(約10秒後)でハンドラーは犬のもとに戻り、次の審査員の合図で係留を解きます。審査員が係留を解く合図をするまで、犬は指示された姿勢を保たなければなりません。

その後、犬を横に付けて審査員の周りを犬が外側になるように1周し、止まることなくスタート地点に移動します。

2. 犬を横に付けて歩く

スタート位置につき、基本姿勢を取ります。

審査員の合図により、犬を横に付けて[座れ]エリアまで歩きます。

3. 座れ

[座れ]エリアで、速やかに座らせます。

審査員が合図をしたら、褒めることが出来ます。

4. 犬を横に付けて歩く

[座れ]エリアで基本姿勢を取ります。

審査員の合図により、犬を横に付けて[伏せ]エリアまで歩きます。

5. 伏せ

[伏せ]エリアで、速やかに伏せさせます。

審査員が合図をしたら、褒めることが出来ます。

6. 犬を横に付けて歩く

[伏せ]エリアで基本姿勢を取ります。

審査員の合図により、犬を横に付けてコーンを左にターンし、[速歩]エリアまで歩きます。

7. 速歩

[速歩]エリアに入ったら、止まることなく常歩の2~3倍ぐらいのスピードで、[緩歩]エリアまで走ります。

8. 緩歩

[緩歩]エリアに入ったら、止まることなく常歩の半分ぐらいのスピードで、[スラローム]エリアまで歩きます。

9. スラローム

[スラローム]エリアに入ったら常歩に戻り、コーンをスラローム歩行で通過します。

進み方は、1つ目のコーンの右側を通り、次に2つ目のコーンの左側、そして3つ目のコーンの右側、4つ目のコーンの左側を通ります。

[スラローム]エリアを抜けた後、右折をして[4つのコーン]エリアへ向かいます。

10. 4つのコーン

ふたつのコーンと群集(人)を、8の字を描くように右回りと左回りで歩き、その中心で基本姿勢を取ります。

特に人の周りを歩かなくても問題ありません。

審査員が合図をしたら、褒めることができます。

11. 待つ

[呼び込み]エリアへ移動し、基本姿勢を取ります。

[呼び込み]エリアにはロングリードが用意してありますので、それに付け替えます。(リードの付け替えは義務ではありませんので、それまでのリードのままでもかまいません。)

ロングリードに付け替えた後、犬に[伏せ]の姿勢をとらせ、振り返ることなく離れます。

離れる距離は、およそ10メートルです。

12. 呼び込み

対面し、審査員が合図をしてから、犬を手元に呼んで下さい。このとき、リードは手に持たず、置いたままにしておきます。

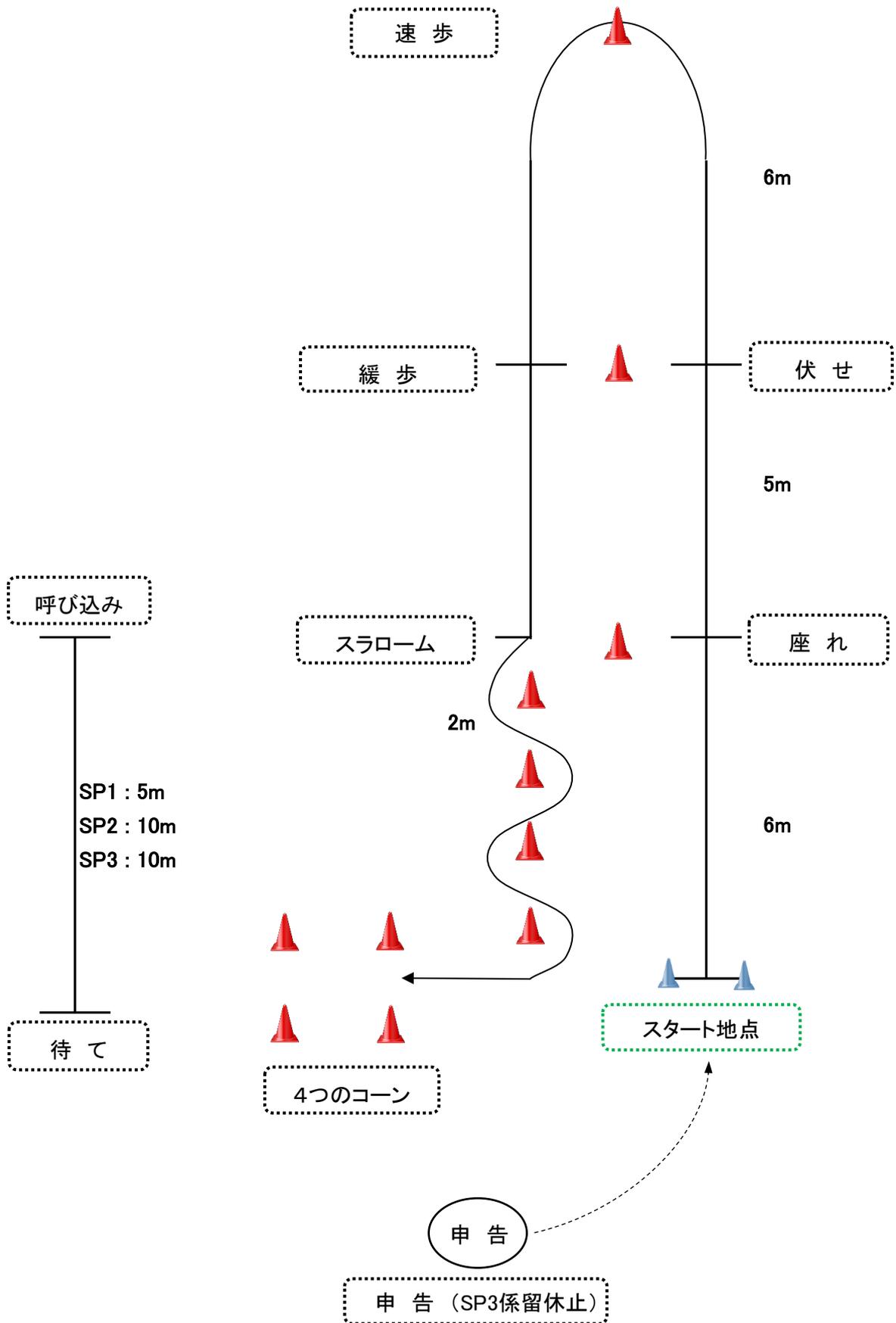
来た犬は、ハンドラーの前に向かい合った状態で座らせるか、ハンドラーの横に並んだ状態で座らせます。(前面停座、或いは脚側停座。)

ハンドラーに飛びついたり通り過ぎたりせず、すぐそばにスムーズに座ることが出来れば理想的です。

ハンドラーの前に向かい合って座った(前面停座)場合は、ひと呼吸あけてから、ハンドラーの横に犬を付けます(脚側停座)。この時、審査員の合図はありません。

審査員が合図をしたら、褒めることができます。

オビディエンス SP 実施要領図



注)「スラローム」のコーンの間隔はおよそ2m、「4つのコーン」の間隔はおよそ2.5m